

熊野よいとこ

私たちが住む紀伊半島の南部は、古くから「熊野」とよばれて、都から見て隔っながら、清らかな所として多くの人々に敬われてきました。

ここに祀られてきたのが、後に熊野三山とよばれる本宮・新宮・那智の3つの神社です。田辺市本宮町にある熊野本宮大社は、元は熊野川の中洲にありました。新宮市にある熊野速玉大社は、熊野川の河口近くにあり、那智勝浦町にある熊野那智大社は、那智の滝を神として祀ってきました。熊野三山とも豊かな自然と水と空と、日本有数の雨の多い土地からです。川と水の勢いを神として畏れ、敬い祀ったのがはじりです。

今から1000年くらい前になると、このような熊野は、神や仏のいるありがたい理想の世界と考えられるようになります。そのため修行するお坊さんだけでなく、天皇を退いた上皇や貴族も大勢、この世の幸とあの世の救いを求めてお参りするようになりました。

600年くらい前からは、熊野三山の信仰は、地方の武士や庶民にも広まりました。多くの人々が熊野へ列をなす様は、「蟻の熊野詣」とまでいわれたのです。



お問い合わせは
新宮市商工観光課
 TEL.0735-23-3333
 〒647-8555 和歌山県新宮市春日1番1号
<https://www.city.shingu.lg.jp/>

新宮市観光協会
 TEL.0735-22-2840
<http://www.shinguu.jp/>

熊野参詣道ガイドマップ

新宮

世界遺産の交差点

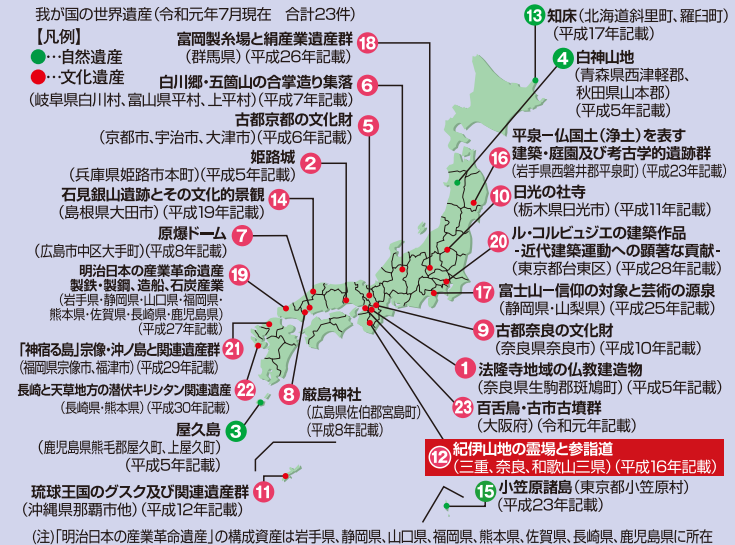
和歌山県新宮市

世界遺産とは？

世界には、その国や民族が誇りとする文化財や自然環境があります。それらを人類共有の財産として、後世に守り伝えていくために、1972年のユネスコ総会で、いわゆる「世界遺産条約」が採択されました。世界遺産を保護・保全し、人類がその価値を認め、認識を深めることは、世界平和の

理念にも通じます。

世界遺産に登録されるには、資産の内容が、他に類例のない固有のものであり、「顕著で普遍的な価値」とあると認められることが重要な条件です。



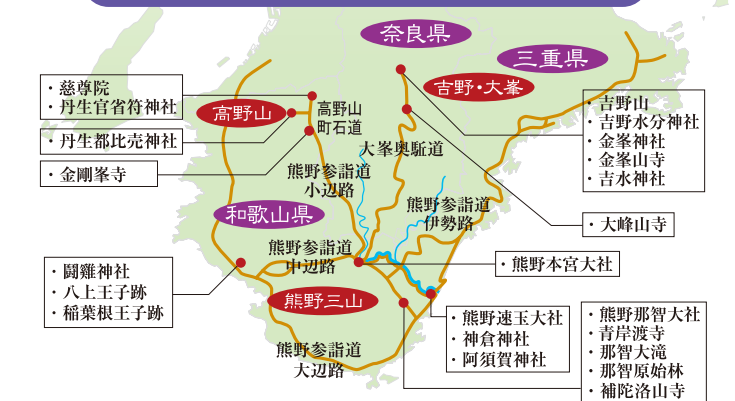
「紀伊山地の霊場と参詣道」とは？

紀伊山地の熊野三山、高野山、吉野・大峰は、古代以来「南山」と呼ばれ、自然崇拝に根ざした神道、外来の仏教、その両者が結びついた修験道など多様な信仰形態を育んだ神仏の霊場です。また、熊野参詣道、高野山町石道、大峰奥駈道などの参詣道(古

道)とともに広範囲にわたり極めて良好に保全され、山岳・森林と一体となった「文化的景観」を形成しています。

2004年7月、「紀伊山地の霊場と参詣道」が日本で12番目の世界遺産に登録されました。

紀伊山地の霊場と参詣道



熊野詣の道

熊野三山に全国から多くの人々がお参りした道が、熊野参詣道(古道)です。紀伊半島には、今でもこの道がいくつか残っています。

京都を出発した場合、淀川を船で下り、摂津国(大阪)から紀伊国(和歌山)に入りました。ここから海岸沿いを田辺まで南下する道を「紀伊路」といいます。田辺からは、山の中を本宮に至る「中辺路」と、串本をまわる「大辺路」に分かれていました。特に中辺路は、上皇や貴族をはじめ、

多くの人々によく利用されました。ここは王子社という小さな社がたくさん祀られていて、俗に「熊野九十九王子」といわれました。王子とは、熊野の神様の子供という意味で、ここにお参りをしたり、儀式を行ったりが熊野を目指したのです。

高野山から本宮に南下する道は、「小辺路」と呼ばれました。

伊勢国(三重県)を通る道は、「伊勢路」と呼んでいます。「大峰奥駈道」は、主に山伏たちが通った厳しい修行の道です。

新宮市の世界遺産と参詣道

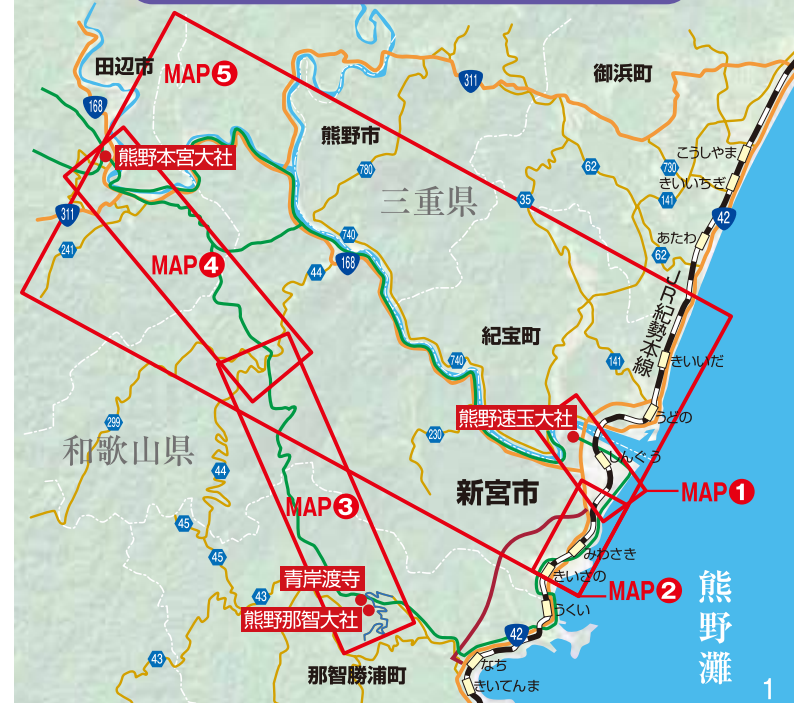
今から400年以上前までは、中辺路を歩いた人たちは、本宮から新宮まで主に船で下り、熊野速玉大社にお参りしました。その後、新宮の町中を歩くと、阿須賀神社から王子神社(浜王子跡)に詣で、王子ヶ浜を歩いて高野坂を越え、三輪崎・佐野を通り、那智山に向かい、大雲取越・小雲取越の険路は避け、帰路はもと来た道を引き返すのが一般的でした。

江戸時代になると、新宮の町中から、

国道42号沿いに南下して橋本を通り、南谷基地の横から広角に登って、角池の横を過ぎて御手洗に下った後、高野坂を越えました。

伊勢路を歩いた人たちは、中世までは、「鶴殿の渡し」を利用して池田(阿須賀)に渡り、速玉大社にお参りしました。しかし、近世には、今の新熊野大橋の付近にあった「成川の渡し」を利用して新宮に入りました。

新宮市の世界遺産と参詣道



新宮市の世界遺産

霊場速玉大社周辺



境内の榎(なぎ)の木



熊野速玉大社 熊野三山の一社 MAP①

熊野本宮大社から熊野川を船で約36km下った右岸に位置するのが熊野速玉大社です。主祭神は熊野速玉大神で、生命の根源である水の動きを神格化したものと考えられています。

なお、熊野速玉大社を古来新宮と呼んできましたが、最初の祭祀の場である神倉神社から、新たに現在地に社殿を移したことに由来するものと考えられます。熊野速玉大社の神(速玉大神・夫須美大神)は、史料の上では、熊野三山の

中で最も早く、天平神護2年(766)に現れています。

昭和28年(1953)に再建された現在の社殿には、10世紀初頭に制作された熊野三神をはじめ、十二所権現ゆかりの神像7体が祀られており、すべて国宝・重要文化財に指定されています。

境内にある榎の木は国の天然記念物。この葉を熊野詣の人々は必ずいただいて帰る習わしがありました。

権現山(神倉山) 神と仏の山 MAP①

新宮市街地の西方にそびえる権現山は、神が降臨する神体山として崇められてきました。

仏が神として権に現れる山という意味

です。主峰は千穂ヶ峰(253m)で、「鎮護ヶ峯」とも記されたように、神仏が鎮まり守護してくれる山です。古くから熊野速玉大社の神降臨の神域として重要でした。

権現山の南、高さ100m近い断崖絶壁には神倉神社があり、「大磐盾」とみなされてきました。また、ここには神が降臨する磐座があり、「ゴトビキ岩」と呼ばれています。古代から霊域として、また修験者の行場として栄えてきたことがわかります。

2月6日の夜行われる御燈祭りは、白装束に身を包んで、500段近い急な石段を駆け下る勇壮な祭で、新年の聖なる神火をいただいて帰る、原始信仰を伝える修験の儀式でもあります。

権現山(神倉山)

御旅所 神祭りの聖地 MAP①

10月15日と16日に行われる「熊野速玉祭」で、熊野速玉大社の神霊が、神馬や神輿に乗って渡御(神幸)される場所です。一区画に、下御旅所(神馬所)と上御旅所(神輿所)が並んでいます。



御旅所



御船島

御船島

神が行き来する聖地 MAP①⑤

御船島は、熊野速玉大社の神の「泊まる」川中島で、10月16日の御船祭の舞台としても有名です。

阿須賀神社 MAP①

熊野川河口近くにある蓬萊山南側の麓に鎮座する古社で、祭神は事解男命です。古くから熊野三山の神を祀り、平安時代から「阿須賀王子」とされました。熊野詣の人々が奉納した平安時代後期から室町時代の御正体(懸仏)約200面が、社殿裏から出土するなど熊野信仰の重要な王子社でした。



阿須賀神社

高野坂 海辺の熊野古道 MAP②

新宮市で、熊野古道がよく残っているところは、新宮の広角から三輪崎に越える御手洗海岸沿いの高野坂です。距離は約1.5kmで、50mほどの高台を越える、海岸の景観が大変美しい古道です。

道沿いには石畳が残り、念仏供養の石碑や石の地藏、山伏を支配した聖護院宮の休憩所跡などがあり、自然と歴史が体感できる手ごろな熊野古道です。



高野坂からの眺望

熊野参詣道中辺路 大雲取越~小口~小雲取越

大雲取越 MAP③

西国三十三観音霊場一番礼所青岸渡寺裏側の登り口を入るといきなり厳しい石階段が続きます。那智高原、登立茶屋跡を過ぎ、一気にこのコース随一の眺めを誇る舟見峠へと登り詰めます。ここではその名の通り雄大な熊野灘を存分に眺めたいものです。舟見峠からは小刻みなアップダウンを繰り返して越前峠へ。越前峠からは「洞切坂」と呼ばれる急坂を降りて、熊野川町小口の里へ下ります。厳しい道が続く本格コースですが途中の峠からの眺めや苔生した石仏、石畳等から神秘的な熊野古道を強く感じ取っていただけることでしょう。



大雲取越



小雲取越

小雲取越 MAP④

熊野川町小口から、県道をしばらく歩くと小和瀬へ着きます。ここが小雲取越の起点になります。小和瀬から古道に入ると途中の桜茶屋跡までは、急な登り坂が続きます。桜峠を越えればこ

の小雲取越コースは比較的快適な尾根道が続きます。途中で現れる茶屋跡で歴史に思いを馳せ、山々の眺望を楽しみながら歩くと、やがて雄大な熊野川の流れを望めます。

川の参詣道(熊野川)

MAP⑤

紀伊山地の北部に源流を發し、南流して熊野灘に注ぐ流域面積2360km²、全長183kmの大河です。中流域に熊野本宮大社、下流の河口部に熊野速玉大社が鎮座しています。中辺路ルートで熊野三山を参詣する場合には、行き帰りとも熊野川の舟運を利用することが多く、「川の参詣道」として位置付けられます。両岸には山がせまり、点在する奇岩怪岩は、すでに12世紀には「熊野権現の持ち物」と考えられ、様々な伝承が語られたようです。また後には、形の特徴などに応じた個性あふれる名前と呼ば



熊野川

れるようになり、熊野を代表する「文化的景観」の一つに数えられています。

熊野参詣道 伊勢路

MAP⑤

紀伊半島東岸中部にあり、「伊勢神宮」と「熊野三山」を結ぶ道です。当時の参詣者の日記によると、10世紀後半には参詣道として成立していたことがわかりますが、参詣者が増えるのは、伊勢神宮への参詣と青岸渡寺を出発点とする西国巡礼が盛んになる17世紀以後です。

伊勢路は、三重県熊野市の花の窟を起点にして、海岸部に行く「七里御浜道」と内陸部を熊野本宮大社へ向かう「本宮道」があります。新宮市熊野川町の伊勢路は、「本宮道」の一部であり、熊野川を渡り、中辺路へつながる道です。



熊野参詣道 伊勢路

大峯奥駈道

MAP⑤

霊場「吉野・大峯」と「熊野三山」を南北にむすぶ修験者の修行の道です。吉野山から大峰山寺、玉置神社を経て熊野本宮大社まで約80kmの道のりがあり、その大半は標高千数百メートル級の山々を越える険しい起伏に富んだ尾根道で、随所に行場が設けられています。

伝説によれば、修験道の祖とされる役行者が8世紀初めに開いたとされ、これを踏破する奥駈は修験道でもっとも重視される修行です。奥駈道には、仏経



大峯奥駈道

岳原始林としてシラビソやその林床に咲くオオヤマレンゲの大群落などの自然景観が残っています。

熊野参詣道沿いのみどころ

霊場 速玉大社周辺

熊野速玉大社～王子ヶ浜～高野坂～佐野王子跡

MAP 1 2



王子神社(濱王子跡)

王子神社(濱王子跡)

王子ヶ浜に近い海辺にある王子社で、海神を祀る古社です。祭神は神武天皇の皇兄2人とされています。文明5年(1473)の「九十九王子記」に初めてその名が見え、阿須賀王子から王子ヶ浜に面した古道ルート沿いにあり、古くから王子社として祀られていたことが知られています。



御手洗海岸

御手洗海岸

王子ヶ浜の南に突き出た岩山の磯で、神武天皇が手を洗ったことから「御手洗」と呼ぶとの伝説があります。また、3つの盥のような岩のくぼみがあったところから名づけられたとも言われています。しかし、熊野詣の人々がお参りのため、塩水で身を清めた(禊)場所と考えたほうがよいようです。



御手洗の念仏碑

御手洗の念仏碑

王子ヶ浜の美しい海岸が見渡せる所に三体の石碑が建っています。三体とも江戸時代の中頃に建てられたもので、真ん中が地藏、左右の二体は阿弥陀を称えた「南無阿弥陀仏」と彫っています。いずれも三重や大阪、滋賀出身の人の念仏記念に建てられた石碑のようです。

孫八地藏

高野坂の中ほどの山側にある石の地藏で、「孫八地藏」と呼ばれています。文字が彫られていませんので由来はわかりませんが、江戸時代初期に建てられたようです。



孫八地藏

五輪塔

孫八地藏から海側に延びる細い道を100mほど行った所(寿門山)に、石組みの壇を築いた五輪塔が建っています。寛文5年(1665)に建てられた「心鏡房海宝大徳」と名乗ったお坊さんのものです。

おな神の森

孫八地藏から100mほど行くと、その左手に金光稲荷社の大きな森があります。江戸時代に、この森を「おな神の森」と呼んだようです。

聖護院宮の休憩所跡

おな神の森の南西あたりが、聖護院宮の休憩所といわれています。本山派山伏(天台宗系)を率いた京都の聖護院宮が、大峯山から熊野三山を巡った時に休憩した場所です。今は石垣が残っている程度で跡地もはっきりしません。

参詣道の石畳

おな神の森からの下り坂は、古道らしい石畳がよく残っています。草が生えたり土が流れていかにようにした、昔の「舗装道路」です。また、山水による古道の流出を防ぐため、斜めに溝を設けた「洗いごし」と呼ばれる昔の排水路もいくつか残っています。

新道道標

塩屋川沿いを100mほど行くと、石のローラーを利用した道標があります。明治17年(1884)、高野坂に代わって今の国道42号に沿った新道ができた時の道しるべです。その時の整備用のローラーに「左新街道」と刻んでいます。この付近が、明治時代の古道と新道の交差点だったのです。

尼将軍の供養碑

佐野王子跡の石碑の北側に、高さ1.45mの供養碑が建っており、尼将軍(北条政子)の供養碑と呼ばれています。北条政子は、二度熊野詣をしており、女性の熊野信仰のヒロインとして祀られたのでしょうか。この碑も、そばの石造地藏尊とともに、海側にあったものを、国道拡幅により移動しました。



尼将軍の供養碑

佐野王子跡

尼将軍の供養碑のすぐ南側に、佐野王子社の跡があります。いわゆる熊野九十九王子社の一つで、熊野の御子神を祀り、選擇・休憩所になりました。佐野王子も鎌倉初期からその名がみえます。近世には那智大社の末社で、境内の森は周囲約400mもあり、「若一王子の森」と呼ばれていました。今は廃社となり、王子跡の石碑が残るのみです。



佐野王子跡

熊野参詣道 中辺路 ●熊野那智大社～大雲取越～小口～小雲取越～熊野本宮大社

MAP 3 4



熊野那智大社



那智の滝



那智山 青岸渡寺

熊野那智大社

那智山青岸渡寺、熊野本宮大社、熊野速玉大社とともに熊野三山と呼ばれ、古来から人々の厚い信仰を受けてきました。那智の原生林を背景に広きわ鮮やかな朱塗りの拝殿があります。御祭神は熊野夫須美神で、ムスピの社と崇められ、歴代上皇をはじめ数多くの人が詣で、全国約4000社の熊野神社の御本社の一社で、御本殿は国の重要文化財に指定されています。

那智山 青岸渡寺

西国三十三札所の第一番として有名。仁徳帝の頃、裸形上人が那智大滝で感得した観音菩薩を安置。平安時代に花山法皇が二の滝付近で千日間修行し、観音霊場三十三所を巡礼する信仰が広まりました。現在の青岸渡寺は天正18年豊臣秀吉によって再建されたもので、熊野では最古の建造物・国の重要文化財です。



楠の久旅旅籠跡

楠の久旅旅籠跡

この付近、江戸時代には十数軒の旅籠があり、大変にぎわいました。当時の参詣者の記録によるとここは猿が多く、大根や菜を植えても取られてしまい、旅籠で旅人へ出す食事には干蕨しかないと言われていました。

円座石

大雲取越道のそばに、円座石といわれる大石が四つあります。わろうだとは昔の円形の座布団のことで、大石の上で円形の敷物に熊野の神々が座って談笑したり、お茶を飲んだといわれています。大石には梵字三字(阿弥蛇仏・薬師仏・観音仏の三仏の意味)がほられ、この辺りを神の御茶屋所といわれてきました。



円座石

熊野参詣道伊勢路

MAP 5

一遍上人名号碑

林道谷口皆瀬川線と万才峠に向かう伊勢路の分岐点から約250mほど登った林道脇にあり、一遍上人の真筆とされる「南無阿弥陀仏」の六字名号が彫られています。和歌山県の文化財に指定されています。

桜地藏

一遍上人名号碑の側に桜地藏があります。天正19(1591)年の江州(滋賀県)飯道寺の宝蔵坊という人が建てたようです。飯道寺は熊野信仰とつながりのある寺院です。



一遍上人名号碑



桜地藏

小和瀬の渡し場跡

雲取越は、小和瀬を中間点として、大雲取越と小雲取越に分けられています。その昔、小和瀬には渡し舟があって、熊野三山に参詣する道人は、何文かの銭を出して赤木川を渡りました。現在、小和瀬橋が架かり、すぐ近くに小雲取越の登山口があります。

賽の河原地蔵

賽の河原とは、死んだ子が地獄で親の供養のために石を積んで塔を作る所とされています。江戸時代後期の武蔵国の人々の供養碑のようで、たくさんの小石が供えられています。狼に喰われた若い僧を弔うためのものとも伝えられています。

熊野本宮大社

古来上下の信仰の篤い熊野三山の一つで、上、中、下の三社からなり、熊野三所権現といわれ、十二殿に十四柱の祭神が鎮座するので熊野十二所権現とも称えられます。本宮の主祭神は家津御子で、新宮の速玉之男、那智の熊野夫須美に對します。

熊野川の中洲が旧社地で、明治22年の大水害に遭い、現在地に移りました。流失を免れた上四社のみ遷宮し、中四社と下四社は石祠で旧社地にあります。

小和瀬の渡し跡



賽の河原地蔵



熊野本宮大社



熊野参詣道 中辺路[熊野川]

●大斎原～権現川原

MAP 5

四目山

熊野本宮大社の撞木(仏具で、鐘などを打ち鳴らす棒のこと)となる木を切り出したという山です。



四目山

貝持嶋

対岸から届くほどの楊枝の柳を伐りだした際、合図のほら貝を吹いた所といわれる貝形の大岩。今はウォータージェット船の係留場所になっています。



貝持嶋

釣鐘石

釣鐘形の岩の割れ目、川に落ちそうに立ちます。この石が落ちるとこの世が減ぶともされています。



釣鐘石

昼嶋

熊野権現が昼食した所といわれています。天照大神と熊野権現が暮を遊んだところともいわれています。島の上部は基盤の目のような縦、横の筋があります。船で熊野川を下る時は、休憩所に最適です。



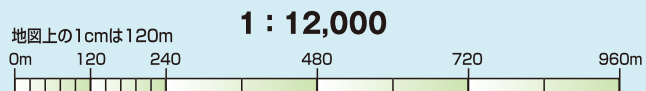
昼嶋

MAP 2

霊場速玉大社周辺 熊野速玉大社～王子ヶ浜～高野坂～佐野王子跡

高野坂では、苔生した石畳や熊野灘の雄大な眺めをゆっくりお楽しみ下さい。三輪崎の町を過ぎると国道42号を歩く箇所もありますので車には充分注意してお楽しみ下さい。

歩行距離 9.3km
標準歩行時間 2時間30分
標準所要時間 3時間

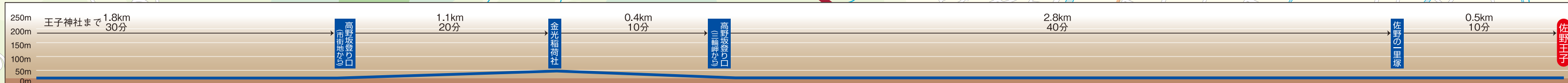
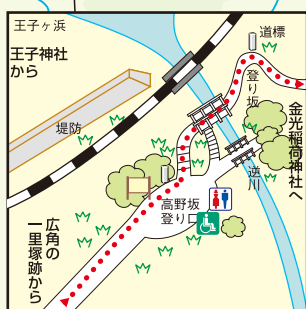


王子神社(浜王子跡)から

前のページから



凡例	
	世界遺産
	王子跡
	トイレ
	駐車場
	身体者用トイレ
	休憩所
	公衆電話
	水飲み場
	緊急電話
	コンビニ
	神社
	ホテル・民宿
	一方通行
	バス停
	熊野参詣道(近世ルート)
	熊野参詣道(古代・中世～)
	自動車専用道路
	国道



熊野古道マップ 王子ヶ浜～高野坂～佐野王子

宇久井駅

佐野王子

MAP 3 おおくもとりごえ 大雲取越

くまの なちたいしゃ こぐち
熊野那智大社(那智勝浦町)～小口(新宮市熊野川町)

歩行距離 14.5km
標準歩行時間 5時間10分
標準所要時間 7時間00分

熊野那智大社・青岸渡寺に参拝の後、妙法、大雲取の山麓に分け入るルートに挑む。
雲の中を行くがごとき厳しい坂道を越え熊野川町小口の里へ。

スタート地点までのアクセス

「紀伊勝浦駅」、または「那智駅」から熊野交通で「那智山」バス停車。下車後、那智大社・青岸渡寺まで徒歩約10分程です。

■ JR紀伊勝浦駅から



このコースの歩き方

●熊野那智大社から小口に向かって歩く

前日に勝浦温泉に宿泊し、小口に向かって歩きます。また、青岸渡寺周辺の宿坊に宿泊する方法もあります。小口に到着後は夕方バスで新宮市に戻る方法と、熊野川町小口に宿泊し、翌日、小雲取を越えて本宮町請川から熊野本宮大社へと歩く方法があります。

●小口から熊野那智大社に向かって歩く

前日、熊野川町小口に宿泊し、熊野那智大社に向かって歩きます。大阪方面に戻られる方は16:00頃までを、名古屋方面に戻られる方は、15:00頃までを目途に熊野那智大社に到着しておく必要があります。

お帰りは

熊野川町小口で宿泊し、翌日小雲取を本宮町まで歩く方法と、小口から熊野交通バスでJR新宮駅へ出る方法があります。小口～新宮駅間は、朝1本夕1本の直通運転バスがあります。(一部区間運転のバスもあり、途中「神丸」バス停で乗り換え、新宮駅方面に戻ることができます。)

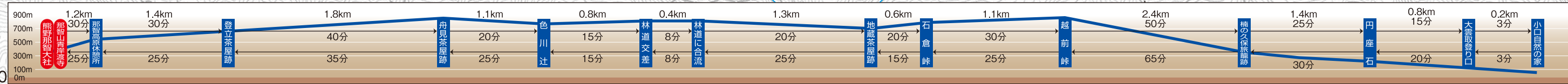
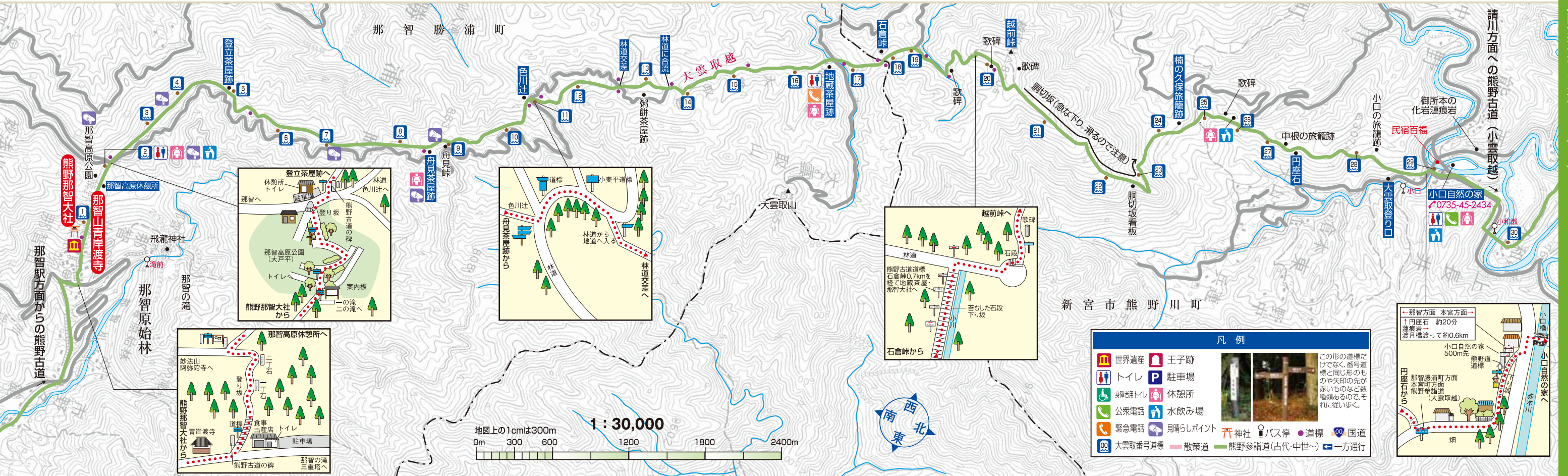
■ 小口から新宮駅へ



標準の歩行記録 参考行程：見学時間等を含む

熊野那智大社	青岸渡寺	那智高原	登立茶屋跡	舟見茶屋跡	
9:00	9:30	9:35	10:05	10:10	11:05
(雄大な熊野灘の眺めを堪能)					
色川辻	地藏茶屋跡	石倉峠	越前峠		
11:25	11:30	12:15	13:00	13:20	13:25
(ここで昼食休憩：お弁当)					
(険しい山道を登りきり休憩)					
楠の久保旅籠跡	円座石	小口(自然の家)	小口自然の家	小口自然の家	小口自然の家
14:55	15:05	15:30	15:40	16:00	

ハイキング終了後、小口自然の家で宿泊。翌日は小雲取に挑戦。



MAP 4 こぐもとりこえ 小雲取越

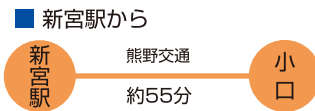
こぐち うけがわ
小口(新宮市熊野川町)～請川(田辺市本宮町)

歩行距離 13.0km
標準歩行時間 4時間25分
標準所要時間 5時間35分

熊野川町小口から、桜峠を越えて本宮町請川へ。大雲取越に比べれば、比較的アップダウンも少なく、木立の中快適なハイキングをお楽しみいただけます。

スタート地点までのアクセス

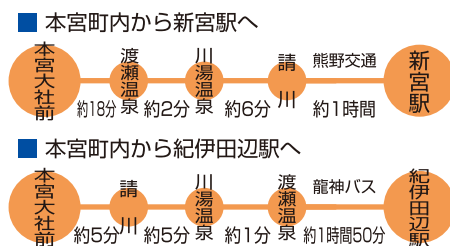
大雲取を歩いて熊野川町小口でお泊りいただくのが一般的ですが、スタート地点の小口へは、「新宮駅」から1日2本運転している直通バスを利用してアクセスすることもできます。
(直通バスは早朝1本、午後1本の運転。)
(「新宮駅」から本宮大社方面行きのバスに乗り、「神丸」バス停で下車。「神丸」バス停で「小口」行き区間運転バスに乗り換えることもできます。1日5本の運転。)



このコースの歩き方

熊野那智大社からの大雲取越とセットで歩くのが最も一般的で、その際は、熊野川町小口で宿泊します。小雲取越を歩いた後は、請川から熊野本宮大社まで歩くのも良い、川湯温泉、渡瀬温泉まで行き、温泉に入ってから路線バスで「紀伊田辺駅」、「新宮駅」へ戻るのもおすすめです。

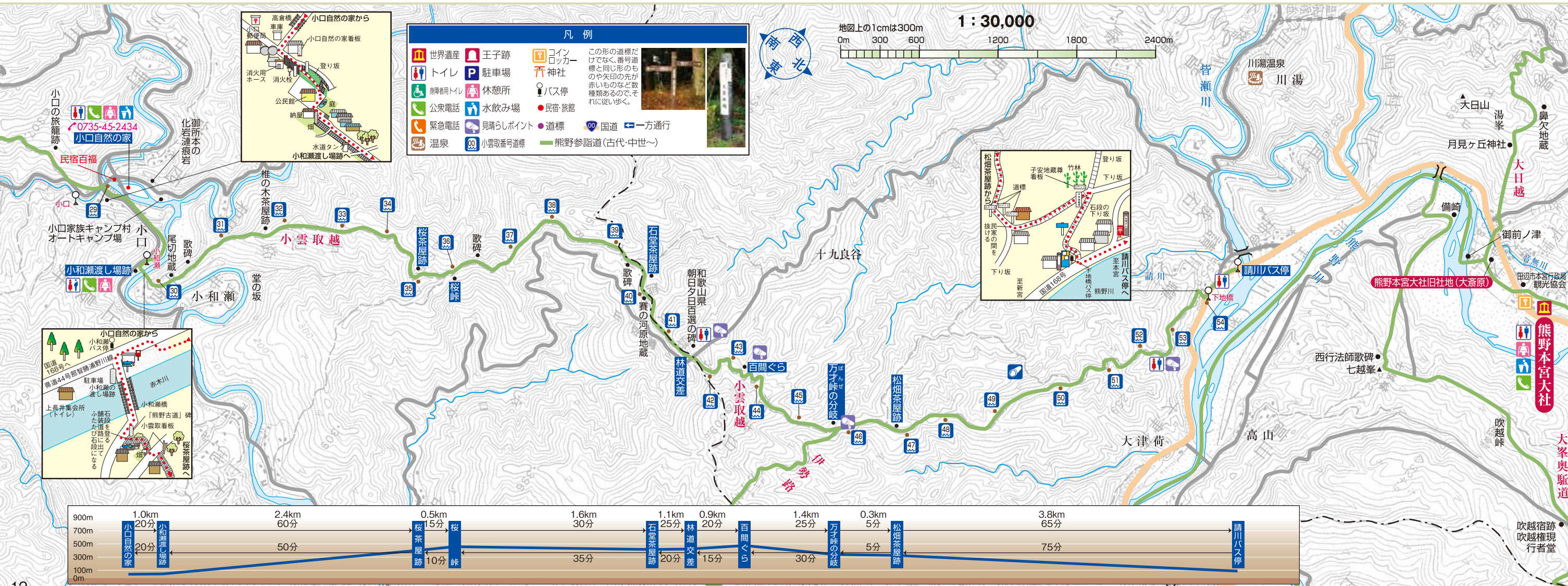
お帰りは



標準の歩行記録

参考行程: 見学時間等を含む。熊野川町小口自然の家で宿泊し早朝スタート。ちなみに前日は大雲取越を歩きました。

熊野川町小口	8:00	小和瀬	8:20	8:25	桜茶屋跡	9:25	9:35	桜峠	9:50
(急坂を登り終えて長めに休憩)									
石堂茶屋跡	10:20	10:25	林道交差	10:50	百間くら	11:10	11:20	万才の峠分岐	11:45
(眺望の名所で休憩)									
松畑茶屋跡	11:50	12:30	請川バス停	13:35	この後、川湯温泉まで歩いて旅館のお風呂で入浴。その後、紀伊田辺駅行のバスで紀伊田辺駅へ。				
(昼食の小休止・お弁当)									



5川の参詣道(熊野川) 大斎原(田辺市本宮町)～権現川原(新宮市)

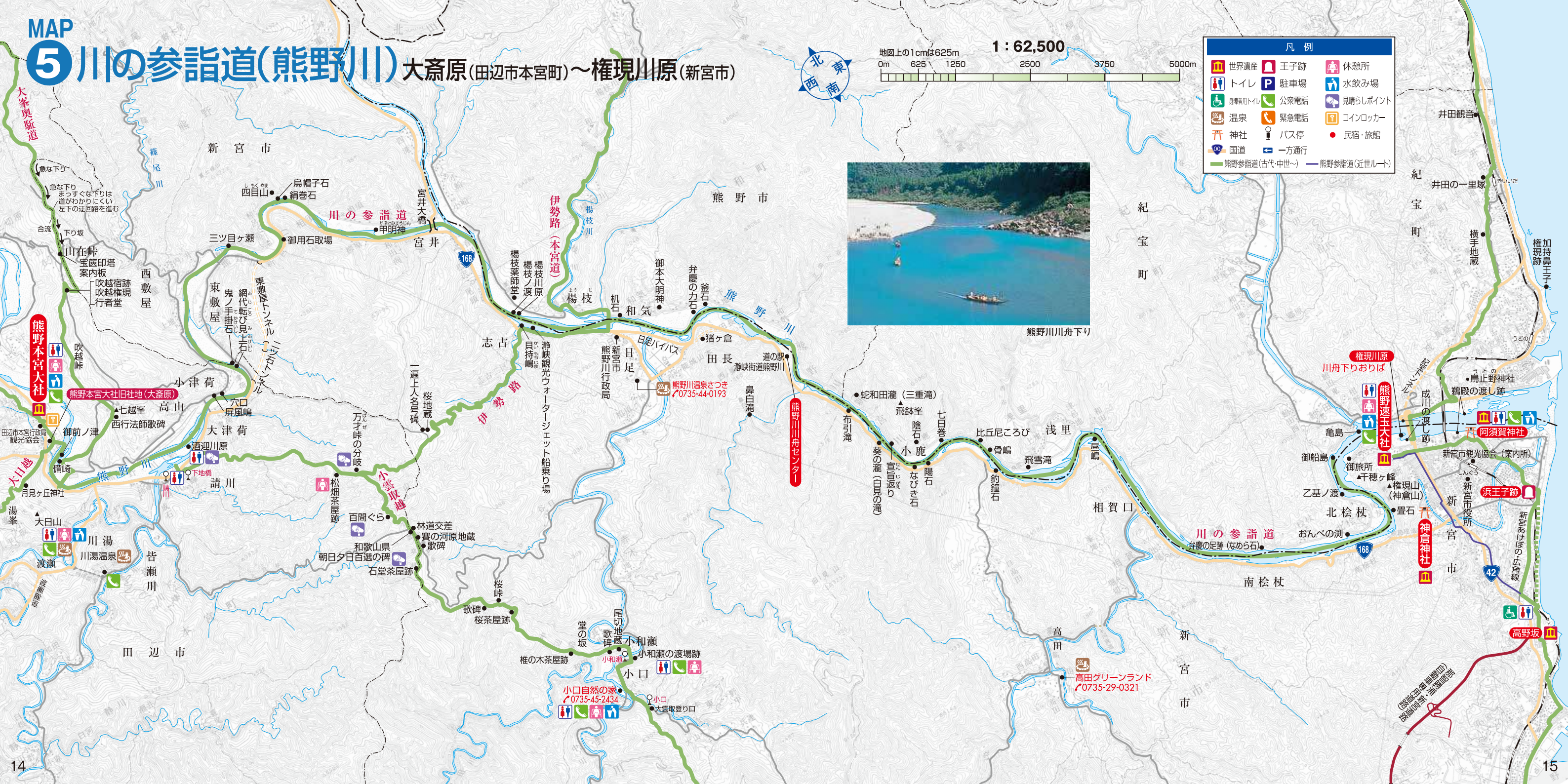


地図上の1cmは625m
0m 625 1250 2500 3750 5000m
1 : 62,500

凡例					
	世界遺産		王子跡		休憩所
	トイレ		駐車場		水飲み場
	身障者用トイレ		公衆電話		見晴らしポイント
	温泉		緊急電話		コインロッカー
	神社		バス停		民宿・旅館
	国道		一方通行		
	熊野参詣道(古代・中世～)		熊野参詣道(近世～)		



熊野川川舟下り



熊野本宮大社

熊野速玉大社

熊野速玉大社

高野坂